

令和2年度アイサ事業報告書

～ワークショップと出張相談を通して～



目次

002 はじめに

STEP-1

計画をたてる

004 支援ガイドを活用した事業計画の策定

008 協力委員との共有①

STEP-2

ニーズを把握する

012 舞台芸術活動調査

STEP-3

ワークショップと出張相談

016 ねんどでフロッタージュ

018 ハンドベルの演奏と体験

020 出張相談の実施

STEP-4

振り返りと今後に向けて

022 振り返り

024 協力委員との共有②

025 次年度に向けて

支援センター事業について

026 障害者芸術文化活動支援センター事業とは

027 アイサについて

028 令和2年度アイサ事業報告

●本文中の略語について

アイサ —— アール・ブリュット インフォメーション&サポートセンター
(障害者芸術文化活動支援センター) の略称

NO-MA —— ボーダレス・アートミュージアムNO-MA

グロー —— 社会福祉法人グロー (GLOW) ～生きることが光になる～

●本文中の表記について

利用者 —— 利用者さん、ご利用者、利用者様等、様々な表現があるが本書では利用者に統一

はじめに

社会福祉法人グローが2012年6月にアール・ブリュット インフォメーション&サポートセンター(略称:アイサ)を開設し、今年で9年目となりました。アイサでは、障害のある方の文化芸術活動に関わる相談支援活動や人材育成、ネットワークづくり、発表等の機会の確保、情報収集・発信などを行っています。

今年度アイサでは、年度初めに事業計画と併せて目標を評価するための指標や基準を立て、事業を実施してまいりました。本報告書では、アイサが今年度取り組んだ「ワークショップと出張相談」の事業に焦点をあて、事業計画の策定から調査、事業実施、振り返りまでの一連の流れをまとめています。成果目標を目指した事業計画の立て方やニーズにあった事業の実施方法、目標に立ち返った事業の振り返り方などが、障害者の芸術文化活動とその支援現場で役立てられることを願っています。

2021年3月

社会福祉法人グロー (GLOW) ～生きることが光になる～
アール・ブリュット インフォメーション&サポートセンター

STEP-1

計画をたてる

支援ガイドを活用した事業計画の策定

1 目的から活動（事業計画）を考える

昨年度末アイサでは、実施した事業について、障害者芸術文化活動普及支援ガイド^{**1}（以下、支援ガイド）内にある「支援センター活動のコツ（効果的援助要素）チェックリスト」を活用し、振り返りを行いました。そして、支援ガイドに示された目指すべき成果・目的に向けて、アイサが行うべき事業は何か、昨年度の振り返りの内容と活動のコツを参考に今年度の事業計画を立てました。

ガイドに示されるアウトカム（目的）に向けて、必要だと考えた活動をロジックモデルで整理した図が以下の通り（図1）です。

令和2年度障害者芸術活動支援センター事業計画

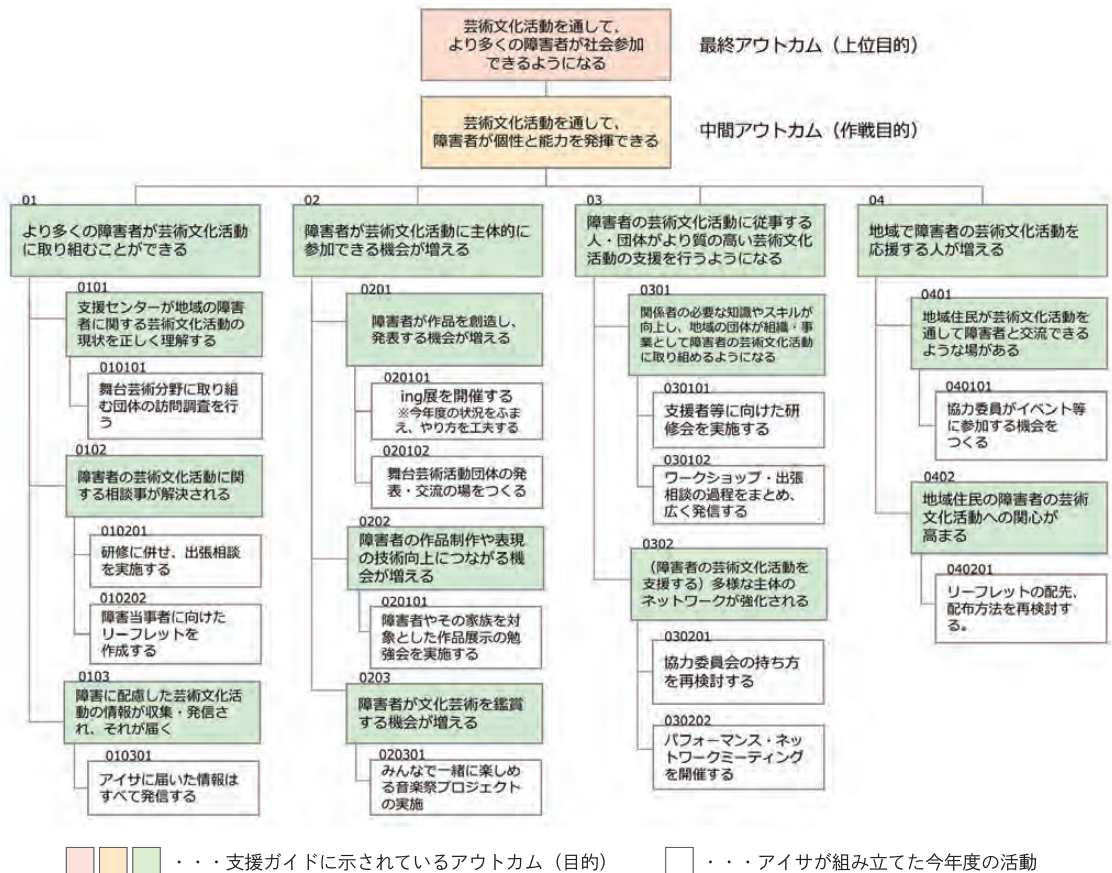


図 1

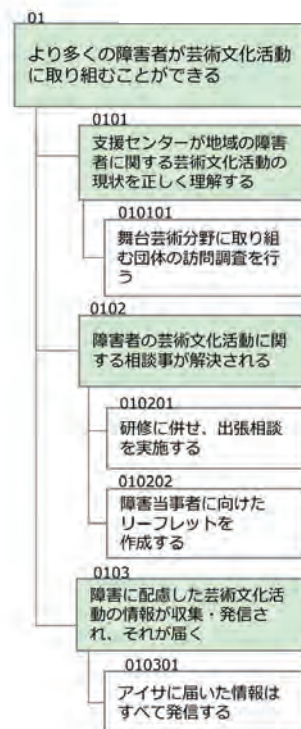


図 2

図 2 は図 1 の 01 の部分を抜き出したものです。このうち「障害者の芸術文化活動に関する相談事が解決される (0102)」というアウトカム (目的) について、アイサが行う活動として考えたもののひとつが、「研修に併せ、出張相談を実施する (010201)」です。

アイサに寄せられる相談は、ホームページやリーフレットを見て、電話やメールで寄せられるものがほとんどですが、研修などでお会いした支援者の方から、その場で質問や相談を受けることもあります。電話やメールをするほどではないけれど、機会があれば聞いてみたいという思いをお持ちの方が多くいるのではないかと考えました。また、そもそもアイサにはどんな相談ができるのかわからないから活用できないということもあると考え、出張相談を実施することとしました。出張相談はワークショップと併せて行うことで、芸術文化活動を行う、または行いたい団体等の日ごろの困りごとやニーズを把握するとともに、新たな活動のきっかけや活動の発展へとつながることも目的としました。

※1 障害者芸術文化活動普及支援ガイド

障害者芸術文化活動支援センターが事業の成果やプロセスを振り返り、事業改善やよりよい実践に活用するため、平成 30 年度厚生労働省障害者総合福祉推進事業の一環で作成されたガイド。事業成果を評価する具体的な手順・方法、また、目指すべき成果やそのための活動のコツなどが示されている。

<https://www.mhlw.go.jp/content/12200000/000521749.pdf>

2. 評価指標をたてる

活動(事業計画)の次に、評価指標^{*2}の検討を行いました。評価指標と評価の方法やその時期、併せて、活動の目標(実施回数など)を記したものが図3です。

令和2年度 アール・ブリュット インフォメーション&サポートセンター 事業目標と評価指標

最終アウトカム (上位目的)		芸術文化活動を通して、より多くの障害者が社会参加できるようになる						
中間アウトカム (作戦目的)		芸術文化活動を通して、障害者が個性と能力を発揮できる						
直接アウトカム	(より具体的な) 直接アウトカム	評価指標	評価の方法と時期	活動	活動目標			
1	より多くの障害者が芸術文化活動に取り組むことができる	0101	支援センターが地域の障害者に関する芸術文化活動の現状を正しく理解する	訪問調査先で出た課題が解決される	訪問調査の総括時に課題と解決の状況を確認(9月)	10101	舞台芸術分野に取り組み団体の訪問調査を行う	12か所
		0102	障害者の芸術文化活動に関する相談事が解決される	障害当事者からの相談件数が増える	昨年度の数との比較(月毎・2月末)	10201	研修に併せ、出張相談を実施する	3回(WS2回、ing1回)
		0103	障害者に配慮した芸術文化活動の情報が収集・発信され、それが届く	HPへのアクセス件数が増える	昨年度の数との比較(月毎・2月末)	10202	障害当事者に向けたリーフレットを作成し、配布する	10月までに作成し、相談機関と当事者・親の会等に配布
2	障害者が芸術文化活動に主体的に参加できる機会が増える	0201	障害者が作品を創造し、発表する機会が増える	「ひろっぱ」企画に障害のある人が参画する	企画実施後、参加者数をカウント(2月末)	20101	ing展を開催する ※今年度の状況をふまえ、やり方を工夫する	ing展の開催
		0202	障害者の作品制作や表現の技術向上につながる機会が増える	勉強会を生かした展示会等ができそうと思う人が増える	勉強会実施後のアンケートで確認(1月)	20102	舞台芸術活動団体の発表・交流の場をつくる	「おっともだちひろっぱ」の開催
		0203	障害者が文化芸術を鑑賞する機会が増える	障害のある人がアクセシビリティの取組を活用し、音楽祭を楽しむ	音楽祭実施後のアンケートで確認(11月)	20201	障害者やその家族を対象とした作品展示の勉強会を実施する	勉強会の開催
3	障害者の芸術文化活動に従事する人・団体がより質の高い芸術文化活動の支援を行うようになる	0301	関係者の必要な知識やスキルが向上し、地域の団体が組織・事業として障害者の芸術文化活動に取り組めるようになる	研修会への参加によって、障害者の芸術文化活動に取り組めそうと思う事業所や人が増える	研修会実施後のアンケートで確認(1月)	30101	支援者等に向けた研修会を実施する	4回(WS2回、権利保護1回、音声ガイド1回)開催
		0302	(障害者の芸術文化活動を支援する)多様な主体のネットワークが強化される	パフォーマンス・ネットワークのつながりが活用される	ミーティング参加者への聞き取り(9月～2月)	30102	ワーキング・ショップ・出張相談の過程をまとめ、広く発信する	年度内発行。県内福祉事業所・まちづくり中間支援団体・文化施設への送付、HP・SNSでの発信
4	地域に障害者の芸術文化活動を応援する人が増える	0401	地域住民が芸術文化活動を通して障害者と交流できるような場がある	より多くの地域住民が障害のある人のイベントに参加する	ing展とひろっぱ企画への一般参加者数で確認(2月)	30201	協力委員会の持ち方を再検討する	再検討した内容で実施。(支援ガイドを用いた事業評価)
		0402	地域住民の障害者の芸術文化活動への関心が高まる	リーフレット等を見た地域住民から、相談や問い合わせが来る	問い合わせ時に情報源を確認(その都度)	30202	パフォーマンス・ネットワークミーティングを開催する	参加団体数20団体
						40101	協力委員がイベント等に参加する機会をつくる	各委員1回以上
						40201	リーフレットの配布先、配布方法を再検討する	新規配布先→文化施設・相談支援事業所・まちづくり中間支援団体・当事者の会・親の会・福祉系大学配布方法→手渡し強化。25文化施設へ訪問

図3

「障害者の芸術文化活動に関する相談事が解決される（0102）」というアウトカム（目的）について、より多くの方から相談が寄せられることが、相談事の解決につながると考え、その評価指標を「障害当事者からの相談件数が増える」としました。また、それを測る基準を「昨年度の数との比較」とし、相談件数を毎月集計してスタッフ間で共有、年度末にも振り返りを行うこととしました。

また、活動の目標は、ワークショップと併せた実施を2回のほか、県内の造形活動を行う福祉施設が集まる機会となることから、滋賀県施設・学校合同企画展(ing展)^{※3}の実行委員会の中で1回実施することとし、計3回の出張相談の実施を目標としました。(図4)

直接アウトカム	(より具体的な) 直接アウトカム	評価指標	評価の方法 と時期	活動	活動目標	
1 より多くの障害者が芸術文化活動に取り組むことができる	0101	支援センターが地域の障害者に関する芸術文化活動の現状を正しく理解する	訪問調査先で出た課題が解決される	10101	訪問調査の総括時に課題と解決の状況を確認(9月)	舞台芸術分野に取り組む団体の訪問調査を行う 12か所
	0102	障害者の芸術文化活動に関する相談事が解決される	障害当事者からの相談件数が増える	昨年度の数との比較(月毎・2月末)	10201	研修に併せ、出張相談を実施する 3回(WS2回、ing1回)
					10202	障害当事者に向けたリーフレットを作成し、配布する 10月までに作成し、相談機関と当事者・親の会等に配布
	0103	障害に配慮した芸術文化活動の情報が収集・発信され、それが届く	HPへのアクセス件数が増える	昨年度の数との比較(月毎・2月末)	10301	アイサに届いた情報はすべて発信する HP掲載率100%

図4

※2 評価指標

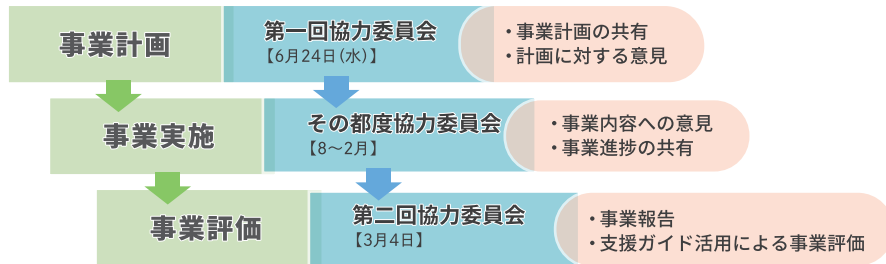
何でアウトカム（目的）を評価するのか、アウトカム（目的）の達成を図るための判断材料。

※3 滋賀県施設・学校合同企画展(ing展)

県内の福祉施設と特別支援学校とボーダレス・アートミュージアムNO-MAとで実行委員会を組織し実施する展覧会。

協力委員との共有①

アイサでは、障害者の文化芸術活動を支える関係者のネットワークを構築することを目的に、協力委員会を設置し、アイサの実施事業へ助言をいただいています。今年度は、文化、福祉、教育、まちづくり等の分野から6名の方に、委員に就任いただき、以下の日程と内容で委員会を開催しました。



■ 協力委員一覧

宮本 ルリ子(世界にひとつの宝物づくり実行委員会)
 白崎 清史(公益財団法人びわ湖芸術文化財団 滋賀県立文化産業交流会館)
 谷 剛(特定非営利活動法人 BRAH=art.)
 細谷 亜紀子(滋賀大学教育学部附属特別支援学校)
 遠藤 恵子(まちづくりネット東近江)
 吉川 知則(ステップアップ21)

■ 第一回協力委員会

日程：2020年6月24日(水)

会場：滋賀県立男女共同参画センター研修室

■ 委員への共有内容

- ・昨年度末、普及支援ガイドをもとに自己点検を行い、ロジックモデルを用いて事業計画を立てている。
- ・今年度の重点実施項目は、①「障害者の芸術文化活動に関する相談事が解決される」、②「障害者が作品を創造し、発表する機会が増える」、③「障害者の芸術文化活動に従事する人・団体がより質の高い芸術文化活動の支援を行うようになる」の3つである。
- ・重点項目①について、研修に合わせた出張相談の実施と、障害当事者に向けたリーフレットの作成を行う。

- ・重点項目②について、滋賀県施設・学校合同企画展(ing展)の開催と、舞台芸術活動団体の発表や交流の場となる企画を計画している。滋賀県施設・学校合同企画展(ing展)はコロナの状況を踏まえ、実施方法を工夫する。舞台芸術活動団体の発表や交流の場の企画は一回限りのイベントではなく、関係づくりに重きを置き、そこからの発展的な展開としてのイベントとする。
- ・重点項目③について、障害当事者や家族、支援者に向けた研修会を実施するとともに、「ワークショップと出張相談」の過程を発信する報告書を作成する。研修会は権利保護研修、作品展示勉強会、音声ガイド研修の3種類を行う。

■ 委員からの意見

- ・今年度の事業計画ということは、ロジックモデルの最終アウトカムを今年度中に達成するのか。そうでないなら、いつまでに達成するという見立てはあるのか。
- ・ロジックモデルの評価について、例えばリーフレットを作成し、配布先を再検討することについてはどのように評価するのかなど、年度末に評価しやすいよう、具体的な数値目標を立てられた方がよい。
- ・オンラインの長所は会場まで行かなくても、自宅で家族と一緒に見られることだと思う。また、オンラインを活用したり編集を行っているからこそできる新しい見せ方や伝えられる情報があると思うので、発信の面ではネット環境を上手に活用して新しい観客を増やすチャンスとしてほしい。
- ・自分が所属している事業所で創作活動をしている方が個展をすることがあるが、支援者が手伝う部分が多くなっていくと、本当にその作者がやろうとしている個展なのかと葛藤することがある。必要な準備について障害当事者にどう伝えていけばいいのかという悩みがあったので、研修会にはぜひ参加したいと思っている。

■ 協力委員会を受けて

最終アウトカムについて、いつまでに達成する見立てかと委員から質問がありましたが、今年度に達成するものではなく、ずっと追い求めていくものと捉えているということを委員会の中で共有しました。

いただいた意見をもとに、年度末に評価しやすいよう、具体的な数値目標や評価の方法・時期について、後日、再検討しました。評価の時期については、年度末だけではなく月ごとなど、活動によって都度行うこととし、スタッフ間で共有しながら事業を行うこととしました。

STEP-2

ニーズを把握する

舞台芸術活動調査

アイサでは今年度、滋賀県内の舞台芸術活動団体への訪問調査を実施しました。障害のある人の舞台芸術活動を地域で展開している団体や個人の活動の実態やニーズを把握し、活動の振興のために必要と思われる支援内容を検討すること、また、障害者の芸術文化活動に関するネットワークを広げることを目的としています。

■ 実施概要

1. 調査対象：障害のある人の舞台芸術活動を行っている滋賀県内の団体および個人、文化施設、行政、学校等（今年度は湖北・湖南エリアを中心に実施）
2. 調査期間：5月～8月
3. 調査内容：活動の実態やニーズの把握、活動が難しいとする団体等の実態やニーズの把握

■ 調査結果

(1) 調査数：

13団体（湖北エリア6団体、湖南エリア7団体）

(2) 活動形態：

福祉事業（就労移行支援事業・日中一時支援事業）4団体

教育活動（学校の教科指導・部活動）2団体

サークル活動（保護者主体）5団体

サークル活動（指導者主体）1団体

その他の活動 1団体

(3) 聞き取り内容：

①新型コロナウイルス感染症の影響

- ・すべての団体が緊急事態宣言中は活動を休止していたが、その後、対策（少人数・グループ制による入替・マスクや消毒の徹底等）を講じて活動している。
- ・活動休止中は動画会議アプリを使って活動をしていたところもあった（学校、就労移行支援事業所）が一部にとどまる。
- ・「活動の再開を目指す気持ちから結束力が強まった」とのコメントがあった。

②活動上の課題

- ・活動の主体として、共に運営するスタッフを求める声が複数の団体から聞かれた。
- ・活動資金について、県内の補助金を活用している団体もあったが、多くは保護者負担での活動であり、「補助金申請の情報入手や、手続きに対して支援があると安心」との声があった。
- ・講師派遣や発表の機会の提案等、活動を発展的に展開していく機会を求める声があった。

訪問先一覧

	訪問先	活動内容	活動地域
教育活動	からだスイッチ	体の動きに課題がある子どもを対象に様々な運動やエアロビックダンス等を実施。	湖南省
	滋賀大学教育学部附属特別支援学校	教育活動として表現活動に取り組む。	大津市
障害福祉サービス事業所	NPO 法人 BRAH = art.	art. 事業部においてアート制作、雑貨販売等を実施。音楽やライブペインティングなどのイベントを行う。	大津市
	NPO 法人共生シンフォニーくれおカレッジ	カリキュラムの中でダンスや演劇、音楽等に取り組む。	大津市
	NPO 法人子育て研究会	歌、打楽器、ギターなど、倶楽部活動と位置づけ、様々な活動を実施。	栗東・守山 草津
	株式会社クラブメゾン 放課後等デイサービス スポーツひろばアクト	プログラムとして、体幹トレーニングやスポーツに取り組む。その他、ダンスやハンドスタンプアートなどの活動も行う。	長浜市
その他団体、個人等	音と花と人と	音楽と園芸を通した人々のつながりを生む活動を展開。ハンドベルやミニコンサートなどを行う。	大津市
	和太鼓とんとこ	活動歴 25 年の和太鼓チーム。毎年自主公演を行う。	大津市
	湖星紅（こほく）	保護者主体の和太鼓サークル	長浜市
	元気隊（げんきたい）	保護者主体の和太鼓サークル	長浜市
	スキップス	保護者主体のロックダンスチーム	長浜市

電話にて聞き取り

団体名	聞き取り内容	活動地域
愛荘町立愛知中学校	特別支援学級在籍で演奏活動を行っている生徒について、情報を伺う。	愛荘町
NPO 法人 好きと生きる	不登校の子どもの居場所づくりや講演活動、ライブ事業等を展開している。他団体の情報をいただく。	長浜市

STEP-3

ワークショップと 出張相談

ワークショップ 「ねんどでフロッタージュ」

日時：2020年11月25日(水)
10:30～11:50

対象：滋賀大学教育学部附属
特別支援学校中学部の生徒19名

講師：
世界にひとつの宝物づくり実行委員会
講師4名、調整員1名



■ 実施先と内容の決定

舞台芸術活動の訪問調査の実施先で、「現在取り組む活動を充実させたい」、「芸術活動に関する知識や技術のスキルアップを図り授業に活かしたい」とのニーズが上がっていた滋賀大学教育学部附属特別支援学校に「ワークショップと出張相談」の企画について打診し、実施することとなりました。

担当教員からは、美術の活動がよいと希望がありました。そこで、アイサの協力委員でもある宮本ルリ子さん所属の世界にひとつの宝物づくり実行委員会が実施する、粘土を使ったフロッタージュの活動を提案。中学部でこの活動を行うこととなりました。

■ 事前打ち合わせ

日程：2020年10月29日(木)

当日のスケジュールやワークショップの内容について、中学部の担当教員と世界にひとつの宝物づくり実行委員会のスタッフ、アイサスタッフの三者で打ち合わせを行いました。

担当教員からは、参加する中学部の生徒19

名は4つのクラスに分かれていることから、ワークショップはこのクラスごとに行いたいという希望がありました。また、校庭に出る際は、クラスごとに別々の場所で活動すること、その時の天気や生徒の様子を見ながら柔軟に実施すること、外に出ることができない場合、教室の中にあるものを使ったり、事前に家から持ってきた小物、拾ってきた木の枝などを用いて実施することなど、当日の流れと実施方法、準備物などを確認しました。

■ ワークショップレポート

生徒には、まず茶色い粘土が一人一つずつ配られました。それを三つにちぎるようワークショップ講師から言われ、粘土を触るだけで楽しそうな生徒もいましたが、まだ戸惑っている生徒もいました。全員がちぎり終わると、教室の外に出て、三つにちぎった粘土でフロッタージュを行いました。粘土を校庭の地面や壁、樹の幹など好きどころに押し当てると、粘土にその形が残ります。直接粘土を押し当てることのできない場所には薄いビニールを当ててフロッタージュを行いました。生徒たちに人気だった



のは、道路でよく見かける格子状になった鉄の蓋や下水のマンホール。粘土を押し付けると、きれいに格子の形が残ります。他には樹の幹に押し当ててみたり、地面の落ち葉に押し当ててみたり、自分の靴で踏みつけてみたり。同じ模様でも押し当てる位置や力加減によって形が変わるので、どれ一つとして同じものはありません。外に出て思い思いの場所で、クラスメートと一緒にフロッターージュする生徒たちは生き生きしていました。事前打ち合わせでは外に出られない生徒もいるかもしれないと心配していましたが、すべてのクラスの生徒たちが外に出て活動することができました。

教室に戻ってきた後は、三つの粘土を組み合わせて好きな形を作りました。いろいろな場所でフロッターージュした粘土をどうやって一つに組み合わせるのか、生徒たちは試行錯誤していました。三つを垂直にくっつけたり、ぐにやりとカーブさせたり、少しだけくっつけてみたり。焼成するときに割れないように、薄いところは粘土を足して補強します。気に入らなくて何度もやり直す生徒もいて、みんな楽しみながらも真剣な表情でした。

形が決まった生徒は、へらを使って模様をつ

け、釉薬で色を塗っていきました。色の塗り方も様々で、写し取った模様に沿って色を塗る生徒もいれば、慎重に少しずつ色を付けたり、大胆に全体に色を乗せる生徒もいました。外にあるものを写し取った形が、触り、くっつけ、模様をつけたり色を塗ったりすることで次第に一人一人の表現になっていきました。

全員の作品が完成した後、模様や形、色など、それぞ



れ頑張った箇所や工夫した箇所を発表したクラスもありました。またその作品がどんなふうに見えるかについて話したり、作品の良いところを見つけて感想を言い合ったりもしました。「このぐにやぐにゃ模様を頑張りました」、「この形がお気に入りです」、または「自分でもどこを頑張ったか分からない」、などなど。完成した作品は滋賀県立陶芸の森に運ばれて焼成されました。

粘土のフロッターージュワークショップを通じて、一人一人の表現や言葉が尊重される雰囲気が生まれたようでした。

ワークショップ 「ハンドベルの演奏と体験」

日時：2021年2月27日（土）
10：40～11：40頃
対象：サマホリくらぶ
（日中一時支援事業）
講師：音と花と人と 高橋佳緒里氏



■ 実施先と内容の決定

県内で活動する団体のニーズの聞き取りをする中、彦根市で日中一時支援事業をおこなう「サマホリくらぶ」にもお話を伺いました。サマホリくらぶでは、工作やスポーツ、外部から団体呼んでのコンサートなどの活動をされています。アイサの事業や「ワークショップと出張相談」の企画についてお伝えしたところ、「新たな活動につながれば」と、実施することになりました。

利用者の普段の様子から、美術の活動よりは音楽やダンスの活動がよいということ、また、活動への参加はそれぞれのペースに合わせ、自由な空気の中で行えるものがよいということでした。そこで、今年度、訪問調査を実施した「音と花と人と」の高橋佳緒里さんを講師とした音楽の活動ができないかと考えました。双方に内容を提案し、いずれからも了承をいただいた後、それぞれと打ち合わせを行いました。

■ 事前打ち合わせ

サマホリくらぶの利用者の年代や当日の人数、どんな楽曲がよさそうかなどをお伺いし、それ

をふまえて高橋さんとワークショップの内容を検討しました。高橋さんはピアノや歌の講師もされていますが、今回はみんなで体験ができることから、「音と花と人と」の「花鈴人」でも行われているハンドベルのワークショップを実施することにしました。また高橋さんのほか、同じく会のメンバーである橘高幸さん、野村萌さんにもご協力いただくことになりました。

■ ワorkshopレポート

サマホリくらぶの活動は、まず朝の会から始まります。全員の名前を呼び、今日の活動を確認し、皆で体操をした後、今日の活動の時間になります。体操するそばでハンドベルの準備が始まると、ちらちらと振り返ったり、様子を見に来たりする方もいました。

まず初めに、ハンドベルの演奏を聞きます。演奏されたのは、「オーラ・リー」というアメリカの歌謡曲。しんと静まる中にハンドベルの音が響き、きれいな音色に聞き入りました。そして次は、「ハンドベルで演奏する曲や音、なんの音でしょう？」クイズ。人気のアニメ曲や街中で聞いたことがある曲、効果音など、全部で12問のク



イズに挑戦しました。アニメの曲などは、イントロですぐにわかった様子。みんなが知っているスーパーのテーマソングは、思わず口ずさんでいる方もいました。また、「聞いたことがあるけど、何の音だったっけ？」という効果音を即答で正解する人も。事前の打ち合わせの中で、答えがわからない、なかなか出ないという場合もあるかもしれないと考え、ヒントを作っていたのですが、ほぼ使わずに正解がとびだしました。

耳なじみのある曲や音でハンドベルの演奏を楽しんだ後、さらに「エーデルワイス」と「威風堂々」の2曲の演奏を聞きました。そして、みんなでハンドベルを体験する時間です。今回は2種類のハンドベルが用意されていました。体験するのはそのうちの1種類、振るだけでなくベル上部のボタンを押しても音が鳴るハンドベルです。音符にハンドベルと同じ色を塗った楽譜を見ながらひとり1音ずつ担当して演奏しました。

まずは、「やりたい」と立ち上がってくれた人が体験。先ほど演奏を聞いた「エーデルワイス」に挑



戦しました。楽譜の1段目からゆっくり演奏し、自分の順番が来たらベルをタッチします。1回目は難しいかなと首をひねる人もいましたが、2回3回と繰り返すことで、徐々に間違えず演奏できるようになりました。

その後は、まだ体験していない人たちで「かえるのうた」を演奏しました。サマホリくらぶは保護者も参加できる活動形態をとっており、この日も親子で「かえるのうた」の演奏を楽しむ姿も。出番の多い音を担当した人は忙しそうでしたが、初めて触るハンドベルに、思わず何度も鳴らす人もいました。もちろん、楽曲やアレンジにより難しくもなりますが、ハンドベルは振れば（今回はボタンを押せば）音が出るので、初めての人も挑戦しやすい楽器です。終了後には、ハンドベルはどこに売っているのか、高橋さんに質問されている人もいました。ハンドベルの演奏を聞くことと、実際にやってみることで、その両方を体験し、ハンドベルの魅力に触れる時間となりました。

出張相談の実施

ワークショップに併せ、日ごろの困りごとやそれぞれの団体のニーズについてお伺いしました。

■ 滋賀大学教育学部附属特別支援学校

ワークショップと同日にお話を伺う時間が取れなかったため、後日、アンケート形式で日ごろ活動をする際の困りごとや欲しい支援について、お伺いしました。

(アンケートより)

- ・今回、教えに来ていただけたことで、「こんなことができるかな？」という考える手立てになった。他にも「こんな風に活動ができるよ」ということが知りたい。
- ・歌や楽器、本物に触れあえる機会がありがたい。
- ・音楽もいろんな表現に触れさせたいと思うが、音楽でも美術と同じように「こんな活動ができるよ」が知りたい。

訪問調査の際にも「現在取り組む活動を充実させたい」というニーズがあがっていました。生徒の皆さんの活動が充実するよう、また、関わる先生方に新たな活動を見出していただけるような機会の検討や情報提供を行うことが必要です。今回実施したワークショップは、今後の活動のヒントにさせていただいたということですので、引き続き活動のヒントとなる機会や情報の提供を行っていきたいと考えています。

■ サマホリくらぶ

1日の活動のうち、午前の時間を使ってワークショップを実施したことから、午後も引き続き活動される皆さんに、お話を伺う時間を取ることはできませんでした。今回はアイサの事業周知を主眼におき、ワークショップの冒頭でアイサについて触れ、今年度作成したアイサのわかりやすい版リーフレットを利用者の皆さんに配布いただきました。芸術文化活動についての相談ができる場所として、今後、必要な時にアイサを活用していただきたいと考えています。

STEP-4

振り返りと
今後に向けて

振り返り

■ ワークショップと出張相談の実施を通して

今回の「ワークショップと出張相談」では、訪問調査を行い、ニーズがあった団体の中から実施先を選定しました。あらかじめ活動状況やニーズを調査していたことにより、スムーズに進めることができました。今年度は、舞台芸術分野の活動団体に絞って調査を行いました。分野を問わず、引き続き県内の団体の活動やニーズの調査を行う必要があると考えます。

ワークショップは、参加した生徒や利用者にとって、そして、教員や支援者という活動を提供する側にとっても、新たな活動を体験する機会となりました。今回は、アイサの協力委員を務めていただいた宮本さん(世界にひとつの宝物づくり実行委員会)と、今年度調査訪問した団体である高橋さん(音と花と人)に講師依頼し、今年度新たにアイサが構築したネットワークを活用できたのも、成果であると考えます。

一方、相談支援活動については、ゆっくり時間を取って実施することができませんでした。詳細は後の項で触れます。

今年度、舞台芸術活動団体調査や「ワークショップと出張相談」を実施する中で、アイサの事業周知がまだまだ十分でないことがわかりました。今すぐに相談したいことがない場合も多いかもしれませんが、まずは、芸術文化活動に関する相談ができる場所があるということを知ってもらうことが必要です。ワークショップの実施が、それぞれの団体のニーズ把握やアイサの事業周知になったことから、今後の事業実施や相談につながるきっかけとすることはできました。

■ 評価指標に立ち返り、振り返る

事業実施後、アイサのスタッフ間で、事業の振り返りを行いました。年度当初に立てた評価指標に基づいて活動目標に対して結果を共有しながら、アウトカムを達成できたかどうかについて、話し合いました。

右の図は、今回実施した「研修に併せて、出張相談を実施する(010201)」という活動の結果を記した部分を、抜き出したものです。

当初、活動の目標を、ワークショップと併せて出張相談を実施することを2回、滋賀県施設・学校合同企画展(ing展)の実行委員会の中で1回の計3回としていました。ワークショップと併せての実施は予定通り2回実施しましたが、滋賀県施設・学校合同企画展(ing展)の実行委員会では、実施することができませんでした。これは、新型コロナウイルス感染症対策により、昨年度より実行委員会の開催時間が短くなり、回数も減ったことから、委員会の中で時間を取ることが難しいと判断したためです。これについては、次年度の実施を検討します。

直接アウトカム	(より具体的な) 直接アウトカム	評価指標	評価の方法 と時期	活動	活動目標	結果	
1 より多くの障害者が芸術文化活動に取り組むことができる	0101	支援センターが地域の障害者に関する芸術文化活動の現状を正しく理解する	訪問調査先で出た課題が解決される	訪問調査の総括時に課題と解決の状況を確認(9月)	10101 舞台芸術分野に取り組む団体の訪問調査を行う	12か所	13か所(福祉事業4団体、教育活動2団体、サークル活動(保護者主体)5団体、サークル活動(指導者主体)1団体、今回の対象外の活動1団体)
	0102	障害者の芸術文化活動に関する相談事が解決される	障害当事者からの相談件数が増える	昨年度の数との比較(月毎・2月末)	10201 研修に併せ、出張相談を実施する	3回 (WS2回、ing1回)	WS2回(①11/25 滋賀大付属特別支援学校中学部、②2/27 サマホりくらぶ)
	0103	障害に配慮した芸術文化活動の情報が収集・発信され、それが届く	HPへのアクセス件数が増える	昨年度の数との比較(月毎・2月末)	10202 障害当事者に向けたリーフレットを作成し、配布する	10月までに作成し、相談機関と当事者・親の会等に配布	1月に完成。福祉事業所のみ配布済み。相談機関、当事者・親の会は今後、報告書と併せて配布。
				10301 アイサに届いた情報はすべて発信する	HP掲載率100%	掲載率100%	

「研修に併せて、出張相談を実施する(010201)」という活動は、「障害者の芸術文化活動に関する相談事が解決される(0102)」というアウトカム(目的)に紐づいています。また、このアウトカムにはその他、「障害当事者に向けたリーフレットを作成し、配布する(010202)」という活動も紐づいています。そのことから、このアウトカム(目的)についての評価指標を「障害当事者からの相談件数が増える」とし、それを測る基準を「昨年度の数と比較」としていました。

今回の「ワークショップと出張相談」については、団体の日頃の困りごとやニーズの把握を目的に実施しました。そのため、この活動を行うことによるアウトカムの達成基準として「障害当事者からの相談件数」だけで判断することは難しいことがわかりました。ただし、ワークショップに参加された生徒の皆さん、利用者の皆さんが芸術文化活動について困りごとがあった時、相談につながることも目指していましたので、今回はそのために、アイサを知ってもらう機会とすることができました。

また、団体への出張相談については、どちらの団体もゆっくりとお話を伺う時間は取れませんが、すでにいろいろな活動をされる中で、活動の充実や新たな活動の展開をとの声を事前の打ち合わせの中でお伺いしていました。そのようなニーズに対してアイサではどのような支援を行うことができるか、次年度の事業に向けて検討していきます。

今回、年間を通して支援ガイドを活用したことで、成果目標を意識した事業の実施や、評価指標に基づいた事業の振り返りを行うことができました。一方で、年度当初に設定した評価の指標や基準では、成果が達成できたのか判断できない部分もあり、指標と基準を明確に設定すること、適時見直すことが必要であることもわかりました。また、アウトカムに対しての活動が適切だったのかと感じる部分もあり、次年度の事業計画を検討する際は、その点が課題であると考えています。

協力委員との共有②

■ 第 2 回協力委員会

日程：2021年3月4日(木)

会場：近江八幡市勤労者福祉センター 研修室

■ 委員への共有内容

- ・今年度の重点項目(P8-9 参照)について、実施内容と成果を報告した。
- ・重点項目①について、障害のある人にとってわかりやすいリーフレットを制作。「障害者当事者からの相談件数が昨年度に比して増える」ことを目標としていたが、制作時期がずれ込んだため十分な配布ができておらず、相談件数も昨年度とほぼ変わらない状況である。
- ・重点項目②について、地域で舞台芸術活動に関係する人が活動に関する情報を共有する機会「パフォーマンス・ネットワークミーティング」を開催した。「参加する団体が昨年度より増える」こと、「ネットワークを活用した事例が生まれる」ことを目標としていた。参加団体は4団体増加。また、「オンラインおっともだちひろっば」の開催につながったり、ミーティング後、参加者が自主的にお互いの活動の場を見学し合うなどの事例が生まれた。
- ・重点項目③について、音声ガイド研修や権利保護研修を実施。「研修への参加によって、障害者の芸術文化活動に取り組みそうと思う人が増える」を目標としており、アンケートで「今後の取り組みに繋がれそうなことがあったか」を尋ねたところ、参加者の8割以上が「とてもあった」「あった」または「機会があれば取り組みたい」と回答した。その後、音声ガイド研修受講者が、障害のある人の発表の場でMCを担うなど、次の活動につながった事例も生まれた。

■ 委員からの意見

- ・大変わかりやすいリーフレットである。地域の小学校等にも配付してみてもいいのではないかと。周りの子の気づきにもつながり、社会全体がこのような活動に目を向けるきっかけになる。
- ・(ワークショップに講師として参加)コロナ禍の下、学校現場ではなかなか晴れ晴れとした活動ができない状況だが、どの生徒も自分なりの作品を作り、陶芸の森で焼き上げ、学校で展示した。アイサが学校とつないでくださり、連携ができて良かったと感じている。
- ・ボランティアは様々な場面で活躍したいと思われている。研修実施の際は、募集対象者を広げておくことが大切。
- ・ロジックモデルを作成する際、指標と基準をどこに置くか?は、話し合っていて決めていくしかなく、納得し共有できるかが重要だ。
- ・コロナ禍において、工夫をしながら事業自体は全て実施したことは素晴らしい成果である。やめるのは簡単だが、「工夫してやりました」という成果を残しておくことが大切。

■ 協力委員会を受けて

取り組み事業についてそれぞれの立場から意見をいただき、スタッフ間だけでなく、関係者とも協働した評価を行うことができました。リーフレットの配布先や研修の対象者など、具体的なアドバイスもあり、ご意見を参考に次年度の計画を検討することとしています。

次年度へ向けて

今年度は、支援ガイドを活用して事業計画を策定し、評価指標の検討を行い、スタッフ間でそれを共有しながら事業を実施しました。これにより、その取り組みが何を目指しているのか、年間を通して意識しながら実施することができました。また、目的から計画を決め、事業を実施し、当初の目的に立ち返って振り返りを行う、という一連の流れで進めることができました。事業の振り返りをした際に、評価指標や基準の立て方やアウトカム(目的)と活動が適切でないと感じる部分があるなど、反省点もありましたが、次年度はその反省点を生かし、引き続きスタッフ間で目的を共有しながら事業を実施したいと考えています。

スタッフ間で事業の振り返りを行う際には、支援ガイドに掲載されている活動のコツ(効果的援助要素)チェックリストを活用しました。このことにより、今年度取り組んだ活動、取り組めていない活動が明確になったため、次年度の実業計画を検討する際は、この結果を念頭に置いて検討することとしています。

事業計画や評価指標は、協力委員会にも共有し、意見交換を行いました。また、協力委員の皆様は個別の事業に直接参加いただいたのは、今年度が初めての取り組みでした。アイサの事業をより知っていただくとともに、それぞれの立場から色々なご意見をいただくことができました。

また今年度アイサが実施した事業の中で、「ネットワークづくり」の中から「発表の場」が生まれたり、研修の受講者がそこで学んだことを生かして、別の事業で活躍したりという事例もありました。次年度の実業の実施にあたっては、このような先々の展開を視野に入れて事業を実施していきたいと思えます。

昨年度末から続く新型コロナウイルス感染症の影響で、今年度当初はどのように事業を実施していくか、手探りの部分も多くありました。対策を講じて事業を検討、実施するなか、もちろん例年通りとはいかなかった部分もありますが、オンラインや少人数での取り組みなど、この状況だからこそ挑戦できたこともあり、アイサとしては活動の幅が広がる結果となりました。今まで実施してきたことと今年度挑戦したこと、状況を見ながらそれぞれの良さを生かし、次年度も引き続き障害のある方の文化芸術活動の裾野を広げていきたいと考えています。最後になりましたが、本事業の実施にあたりご協力いただきました皆さまに、心よりお礼申し上げます。

支援センター事業について

■ 障害者芸術文化活動支援センター事業とは

2017年度から「障害者芸術文化活動普及支援事業」が実施されています。障害のある人が芸術文化を享受し、多様な活動を行うことが出来るように、地域における支援体制を全国に展開し、障害のある人の芸術文化活動の振興を図るとともに、自立と社会参加を促進することを狙いとした事業です。

本事業において、各都道府県の障害者の活動をサポートする「障害者芸術文化活動支援センター」、都道府県の支援センターをフォローするブロック「障害者芸術文化活動広域支援センター」、広域センターをフォローする全国「連携事務局」が設置されています。

社会福祉法人グロー（GLOW）は、滋賀県における「障害者芸術文化活動支援センター」を担っています。

■ アイサについて

アイサは障害のある人の美術や舞台表現をめぐる「つくる」「つながる」「まもる」をサポートしています。

つくる	作品や展覧会をつくる、舞台表現の場や公演をつくるなど、「つくる」に関する相談に応じ、必要な情報を提供します。
つなぐ	作品を発表したい、作品がつくられる現場を見たいなど、作者や出演者と社会を「つなぐ」ためのサポートをします。
つながる	安心して美術や舞台表現の活動ができるよう障害のある人の権利を「まもる」ための情報提供をします。

アイサでは相談支援の他にも、次のような事業を行っています。

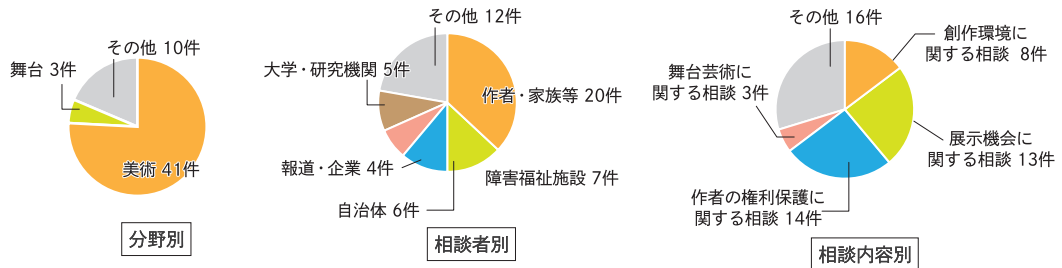
- **研修会の開催** 障害のある人の芸術文化活動を支援する人たちや、障害のある人、家族など、それらの活動に関心のある人たちを対象に、展示や公演の技術研修、権利保護に関する研修などを行っています。
- **ネットワークづくり** 障害のある作者や出演者、その家族、福祉関係者、美術や舞台関係者、地域の方など分野や領域を超えたネットワークをつくることを目的に、交流の場となるような取組を行っています。
- **発表等の機会確保** 県内の障害福祉サービス事業所、特別支援学校等に呼びかけて、ボーダレス・アートミュージアムNO-MAと合同で「滋賀県施設・学校合同企画展」を開催しています。また令和2年度は、県内で芸術文化活動に親しむ障害のある人が活動を発表し、参加者同士が交流できる機会として、オンライン発表の場を作りました。
- **情報収集・発信** 障害のある人の芸術文化活動の情報を収集し、アイサのウェブサイトから発信しています。

令和2年度アイサ事業報告

1. 相談支援

今年度の相談支援活動実績（2020年4月1日～2021年2月28日）

相談件数 54件



2. 人材育成研修

プログラム1 音声ガイド研修「みんなで一緒に楽しめる音楽祭プロジェクト2020」

日時	講師	内容	参加者
【第1回】基礎研修「見えない人をガイドするって？」			
2020年 10月9日(金) 13:30～16:00	松田高加子氏(パラブラ株式会社) 藤井佳子氏(滋賀県視覚障害者センター音訳担当)	視覚障害とは、音声ガイドの役割など	14名
【第2回】実践研修「音声ガイドに挑戦！」			
2020年 10月28日(水) 13:30～16:00	持丸あい氏(バリアフリーナレーター) 藤井佳子氏(滋賀県視覚障害者センター音訳担当)	昨年度の音楽祭動画にて、音声ガイドに挑戦	16名
【第3回】現場研修「劇場で音声ガイドを体験しよう」			
2020年 11月15日(日) 14:00～	持丸あい氏(バリアフリーナレーター) 藤井佳子氏(滋賀県視覚障害者センター音訳担当)	「糸賀一雄記念賞第十九回音楽祭」音声ガイドモニタリング	15名

プログラム2 権利保護研修「作品を使ったグッズづくりと権利のことを学ぼう」

日時・場所	講師	内容	参加者
2020年 12月16日(水) 13:30～17:00 やまなみ工房	早川弘志氏(社会福祉法人やまなみ会やまなみ工房副施設長) 平塚崇氏(北大津きぼう法律事務所弁護士) 竹岡寛文氏(株式会社タケコマイ代表取締役)	事例報告、グッズ制作ワークショップ、著作権等についての講義	20名

プログラム3 作品展示勉強会「自分の展覧会を開催する方法を学ぼう」

日時・場所	講師	参加者
2021年 1月17日(日)、24日(日)13:30～17:00 cafe&gallery spoons	NO-MA学芸員	8名

3. 関係者のネットワークづくり

・パフォーマンス・ネットワークミーティング

地域で舞台芸術活動に関係する人が活動に関する情報を共有する機会として開催しました。

	日時	内容	参加団体数
【第1回】	2020年 10月13日(火)	訪問調査について(報告)、活動資金の集め方について(協議・情報提供)、発表と交流の場づくりについて(協議)	8団体
【第2回】	2021年 3月16日(火)	「オンライン おっともだちひろっぱ」の取組について(振り返り)	7団体

4. 発表の機会の創出

・滋賀県施設・学校合同企画展の開催

「第17回滋賀県施設・学校合同企画展 ing・・・～障害のある人の進行形～」

県内の福祉施設、特別支援学校とボーダレス・アートミュージアムNO-MAで実行委員会を組織し、企画・展示しました。

(開催概要)

会期(前期): 2020年11月28日(土)～12月27日(日)

会期(後期): 2021年1月9日(土)～2月7日(日)

参加団体数: 26団体(福祉施設25か所、特別支援学校1か所)

実行委員: 31名

出展者: 30名

入館者数: 698人

アドバイザー: 野原健司氏(美術家)



・オンライン発表の場の開催

「あ～!いっさ!!」

コロナウイルス感染症予防の観点から広く活用されるようになったウェブ会議システム「ZOOM」を使い、芸術活動に親しむ障害のある人が自作の作品紹介やパフォーマンス等を発表し、地域の参観者となつた機会をつくりました。

開催日時: 第1回 2020年8月11日(火) 14:00～15:00

第2回 2020年10月4日(日) 10:30～11:30

第3回 2020年12月26日(土) 19:00～20:00

参加者(延べ人数): (発表者) 8名 (参観者) 15名

•舞台芸術活動団体の発表や交流の場の企画

県内の舞台芸術分野で活動する団体や個人が、日頃の活動を主体的に発表したり、参加者同士が交流したりする機会を創出することを目的として企画・実施しました。また、開催にあたり、事務局（アイサ）とともに企画・運営を行うスタッフを募り、2回の企画会議を実施しました。

（開催概要）

【企画スタッフ】

北山 早智子氏（NPO 法人子育て研究会）
谷 剛氏（特定非営利活動法人 BRAH=art.）
田中 ともゑ氏（スキップハート）
高橋 佳緒里氏（音と花と人と）
河合 弘之氏（和太鼓とんとこ）
川島 民子氏（からだスイッチ）

【企画会議】

第1回

日時：2020年12月21日（月）10：00～12:00

会場：草津市立まちづくりセンター

内容：「オンライン おっともだちひろっぱ」の持ち方についての協議

第2回

日時：2021年1月18日（月）10：00～12:00

会場：草津市立まちづくりセンター

内容：「オンライン おっともだちひろっぱ」の持ち方についての協議

「オンライン おっともだちひろっぱ」

開催日時：2021年2月28日（日）13：30～15：30

参加団体：NPO 法人子育て研究会、スキップハート、音と花と人と 花鈴人チーム、和太鼓とんとこ、ももんち親子太鼓、湖南ダンスカンパニー、丘につづく径、ひまわり太鼓



5. 情報収集・発信

■ ホームページ、Twitterによる情報発信（2020年2月末時点）

• ホームページ掲載記事数とアクセス数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	計
記事数	2	1	9	15	11	10	18	16	17	15	12	126
アクセス数	597	508	710	1,265	872	693	1,341	1,537	1,473	1,337	1,679	12,012

• ホームページカテゴリ別掲載件数

アイサからのお知らせ	20
イベント・展覧会情報	77
公募情報	18
研修・調査等レポート	11
計	126

• Twitterツイート数とインプレッション数（2020年7月から開始）

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	計
ツイート数	8	4	3	4	5	4	5	10	33
インプレッション数	1,309	1,193	831	1,571	1,538	1,018	1,442	4,585	8,902

■ 「わかりやすい版」リーフレットの作成

主に知的障害や発達障害のある人がアイサの相談窓口アクセスしやすくなり、展覧会や公募情報等が入手しやすくなることを目的に、情報が整理されたわかりやすいリーフレットを作成しました。作成にあたっては、知的障害、発達障害の当事者や支援者へのモニタリングを行い、出された意見を参考にしました。



令和2年度アイサ事業報告書
～ワークショップと出張相談を通して～

2021年3月31日発行

[制作・発行]

アール・ブリュット インフォメーション&サポートセンター
社会福祉法人グロー(GLOW)～生きることが光になる～
法人本部企画事業部

〒521-1311 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦4837-2

TEL 0748-46-8118 FAX 0748-46-8228

E-mail artbrut_info@glow.or.jp

WEB <http://info.art-brut.jp>

[発行責任者]

牛谷正人(社会福祉法人グロー(GLOW)理事長)

[執筆]

松井裕紀、山口有子、樽見拓樹、井上敬子
(社会福祉法人グロー(GLOW)法人本部企画事業部)

[デザイン]

上川七菜

[助成]

令和2年度障害者芸術文化活動支援センター運営費補助金(滋賀県)